

令和7年度 第1回次世代空モビリティひょうご会議

令和7年11月13日
10：30～12：00
兵庫県庁2号館5階庁議室

会議次第

02

1 開 会

2

県における空飛ぶクルマ事業の今後の方向性について

- 0 1 兵庫県におけるこれまでの取組（R5年度から実施している県事業の実績報告）
 - ①次世代空モビリティひょうご会議
 - ②尼崎フェニックスバーティポート
 - ③機運醸成イベント
 - ④HYOGO空飛ぶクルマ研究室
 - ⑤空飛ぶクルマ実装促進事業
- 0 2 兵庫県が目指す将来の姿（長期目標の設定）
- 0 3 今後の取組方針（R8年度以降の実施事業案）

3 意見交換

4 閉 会

構成員出席者

03

区分	所属・職名等	氏 名	備 考
有識者	県立大学自然・環境科学研究所 教授	赤澤 宏樹	
	県立大学大学院工学研究科 准教授	荒木 望	
	株式会社BUZZPORT 代表取締役	江藤 誠晃	
	公益財団法人新産業創造研究機構 専務理事	川村 昌志	随行：技術部門長 久保田 寛
	株式会社神戸新聞社メディアビジネス局長	箸本 史朗	(オンライン)
	慶應義塾大学大学院SDM研究所 顧問	中野 冠	
事業者	オリックス株式会社 大阪事業法人営業第一部 課長	野澤 義直	
	兼松株式会社 航空宇宙部第1課 課長代理	中村 康平	
	株式会社SkyDrive 国内事業マネージャー	戸村 竜也	
	全日本空輸株式会社 大阪支店 支店長	松井 規代	随行：マネージャー 林 堅偉
	日本航空株式会社 エアモビリティ創造部部長	村越 仁	(オンライン) 随行：シニアアドバイザー 佐々木 康人 (オンライン)
	株式会社パソナグループ 執行役員	大出 亮	
	丸紅株式会社 航空宇宙部シニアアドバイザー	菊池 武夫	(代理出席者)
オブザーバー	経済産業省製造産業局航空機武器産業課次世代モビリティ政策室室長補佐	別木 慧	(オンライン) 随行：係長 砺波 慶綺 (オンライン)
	国土交通省 航空局 安全部 無人航空機安全課 室長	山本 昂太郎	(オンライン) 随行：主査 白敷 ひかり (オンライン)
	大阪府商工労働部成長産業振興室産業創造課 課長補佐	佐々田 修之	(オンライン)
	神戸市 都市局 部長 (未来都市担当)	平岡 呂晃	随行:都市局未来都市推進課担当係長 佐野 聡

兵庫県出席者

04

所属・職名等	氏 名	備 考
企画部長	守本 豊	
産業労働部長	小林 拓哉	
企画部次長	井筒 信太郎	
産業労働部次長	中村 浩明	
産業労働部新産業課長	福田 靖久	
[事務局（企画部総合政策課）]		
政策推進官兼副課長	森田 晃	
主査	高田 慎也	

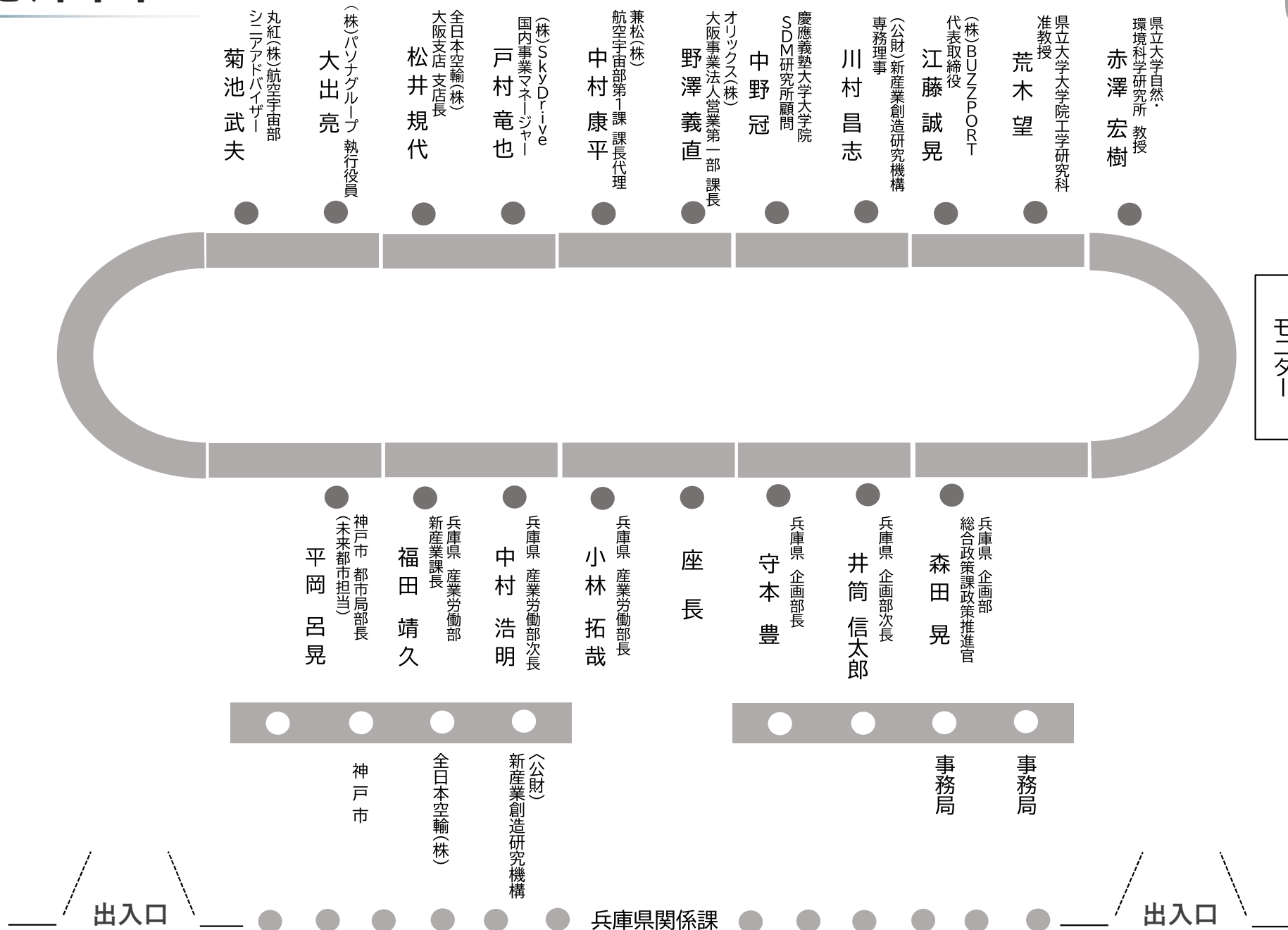
配席図

05

記者席

傍聴席

モニター



今年度の会議実施方針

06

1 実施方針

- ・本県ではこれまで県策定のロードマップに基づき、空飛ぶクルマ事業を推進
- ・県における空飛ぶクルマ事業は今年度で3年目を迎えることから、これまでの取組実績や議論の内容を踏まえ、**本県における空飛ぶクルマ事業の今後の方向性を検討**

2 実施スケジュール

	時 期	内 容
第1回	R7.11	①県における今後の方向性案の提示 ②意見交換
第2回	R8.3	①県における今後の方向性（報告） [R8年度当初予算を踏まえた報告] ②R7実装促進事業採択事業者の 成果報告 ③意見交換

参考:現行ロードマップ



R8年度以降の取組を具体化

県における空飛ぶクルマ事業の 今後の方向性について

空飛ぶクルマ事業の方向性について

08

01 取組実績

兵庫県におけるこれまでの取組

- 次世代空モビリティひょうご会議
- 尼崎フェニックスバーティポート
- 機運醸成イベント
- HYOGO空飛ぶクルマ研究室
- 空飛ぶクルマ実装促進事業

02 目指す 将来像

兵庫県が目指す将来の姿

- 空飛ぶクルマが日常的に利活用される地域の形成（目標1）
 - 目標1－1：空飛ぶクルマの商用運航（ビジネス化）実現・定着[主に観光分野]
 - 目標1－2：地域課題解決に向けた活用[防災・救急医療・地域交通等]
- 空飛ぶクルマ関連産業のエコシステムの形成（目標2）

03 取組方針

今後の取組方針(目標実現に向けた今後の取組)

- 地域と連携して取組方針等を検討する場の設置
次世代空モビリティひょうご会議地域分科会（仮称）の設置
- 各目標実現に向けた事業展開
 - 【目標1-1】空飛ぶクルマビジネス定着：事業化準備の取組への支援
 - 【目標1-2】地域課題解決に向けた活用：地域分科会での意見交換を踏まえた活用検討
 - 【目標2】関連産業のエコシステム形成：県内事業者向けセミナー・イベント開催

01 兵庫県におけるこれまでの取組

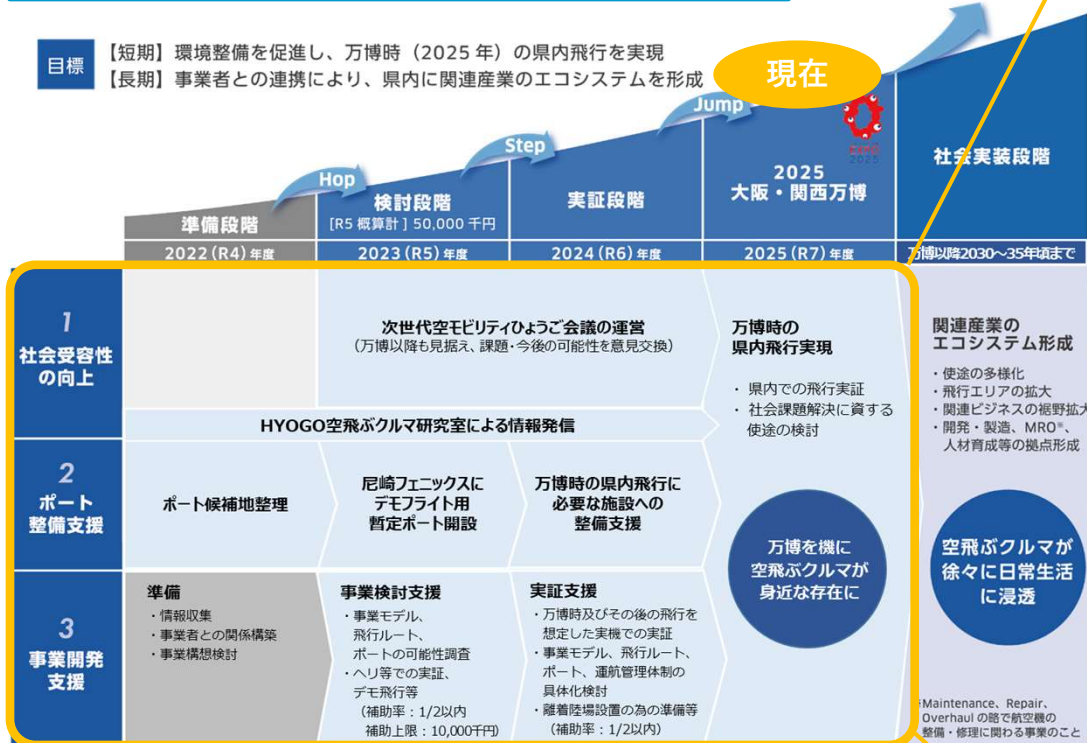
01 兵庫県におけるこれまでの取組

- ・本県では「空飛ぶクルマ展開ロードマップ」に基づき、県内での社会実装に向けて取組を推進
- ・今後の取組を検討するにあたり、取組実績や課題等を整理

空飛ぶクルマ展開ロードマップ

- 目標
- 【短期】環境整備を促進し、万博時（2025年）の県内飛行を実現
 - 【長期】事業者との連携により、県内に関連産業のエコシステムを形成

現在



①次世代空モビリティひょうご会議

空飛ぶクルマの現状や想定される利用シーンの検討など、将来的な社会実装に向けて取り組むべき方向性等を議論



②尼崎フェニックスバーティポート

尼崎フェニックス事業用地に離着陸場を整備し、事業者の取組等を支援



③機運醸成イベント

空飛ぶクルマの興味・関心を高めていただくための各種イベントを開催

④HYOGO空飛ぶクルマ研究室

次代を担う若者と共に空飛ぶクルマが飛ぶ未来を構想し、研究室で生まれる提案を広く発信することで社会受容性向上を目指す



⑤空飛ぶクルマ実装促進事業

県内でのビジネス展開を目指す事業者の実証や調査等の取組を支援



01 兵庫県におけるこれまでの取組

①次世代空モビリティひょうご会議

概要

新たなサービスの展開や地域課題の解決につながることを期待される「空飛ぶクルマ」について、将来的な社会実装を目指し、県内の社会受容性向上や機運醸成を図るとともに、実装に向けた課題や今後の可能性などを関係者と意見交換を行うため、有識者や事業者等が参加する会議を開催

取組実績

○令和5～6年度の2年間で**計4回実施**

- ・空飛ぶクルマに関する最新動向や県内での取組を情報発信
- ・活用が想定される利用シーンの検討や県として取り組むべき方向性等を議論

R5～6年度実施の会議内容

		開催日	内 容
R5	第1回	8.31	①「空飛ぶクルマの現状」講演、②兵庫県の取組状況 ③利用シーン、社会受容性の向上、関連ビジネスへの波及等の検討
	第2回	3.12	①実装促進事業採択事業成果報告、②県事業報告・当初予算説明
R6	第1回	10.15	①観光分野における活用策の提案、②トピックスの紹介（空飛ぶクルマの最新動向、チャーター活用した高付加価値旅行者向けツアー商品の造成）
	第2回	3.19	①実装促進事業採択事業成果報告、②県事業報告・今後の会議方針



成果・課題

○県内での実装を目指す事業者や国・県・関係団体からの取組報告等を通じて、県内自治体をはじめ、県民の方々に空飛ぶクルマに関する情報を広く周知し、**空飛ぶクルマに関する認知度向上に寄与**

○計4回実施した会議で、構成員から主に以下の意見が出され、今後の施策展開に向けて検討が必要

- ・住民等からの理解を得るため、**公益性の高い活用（救急医療・災害対応等）と組み合わせた活用策を検討**することが重要（観光活用のように富裕層だけではなく、**県民にとって「自分ごと化」**できることが重要）
- ・**地域と連携**して地域や住民にとってメリットがある**活用策を長期的な目線で検討**することが必要

01 兵庫県におけるこれまでの取組

② 尼崎フェニックスバーティポート

概要

空飛ぶクルマの社会実装に向けた環境整備を加速させ、県内での飛行を実現させるため、**尼崎フェニックス事業用地に離着陸場を整備**

取組実績

- ・ 令和5年11月：尼崎フェニックスバーティポート整備
- ・ 令和5年11月～：運航を目指す事業者による実証飛行等で活用
- ・ 令和7年8月：「空飛ぶクルマデモフライトイベント」の実施



成果

- ・ 空飛ぶクルマの運航を目指す事業者による実証飛行等で活用され、**事業者の取組を環境面からサポート**
- ・ 尼崎フェニックス事業用地で実施している「ひょうご楽市楽座」の一環として実施した「空飛ぶクルマデモフライトイベント」においても活用し、**空飛ぶクルマの認知度向上にも貢献**

01 兵庫県におけるこれまでの取組

③ 機運醸成イベントの実施

概要

県民の方々に空飛ぶクルマを身近に感じてもらい、県内での社会実装に向けた機運を醸成するため、**デモフライトイベント**や**ワークショップ**などを各地で開催

(1) 空飛ぶクルマ紙飛行機ワークショップ

「空飛ぶクルマ」をテーマに未来の移動手段やこれからの社会について、紙飛行機を通じて親子で楽しく体験できるワークショップを実施



森の文化祭@尼崎の森中央緑地



尼崎キューズモール



ひょうごフィールドパビリオンウィーク@万博



ららぽーと甲子園

実施数 4会場 参加数 約1,300名

(2) 「空飛ぶクルマ学習会」

主に小学生を対象に、空飛ぶクルマの魅力を知ってもらう「空飛ぶクルマ学習会」を実施



県庁見学に来庁した
小学生を対象に
計6回実施

森の文化祭にて
親子向けに
計7回実施



実施日 5/2～6/9のうち7日間 参加数 約530名

01 兵庫県におけるこれまでの取組

14

(3) 空飛ぶクルマデモフライトイベント

関西・瀬戸内地域で空飛ぶクルマのビジネス化を目指す(一社)MASCと連携し、ひょうご楽市楽座会場においてデモフライトを実施するとともに、**コックピットの試乗体験会**や**VRでの操縦体験**等、**空飛ぶクルマを身近に体験できる**イベントを開催

開催日 R7.8.2～8.3(2日間)

参加者数 約5,000名



デモフライト



VR操縦体験



コックピット試乗会

取
組
実
績

成
果
・
課
題

- ・ 県内各地で開催したイベントには、**約6,800人**が参加。県民をはじめとした多くの方々に空飛ぶクルマについて、身近に感じていただき、**空飛ぶクルマの認知度向上に寄与**
- ・ 社会実装に向けて引き続き、**空飛ぶクルマへの理解促進（社会受容性向上）のため継続した取組**が必要

01 兵庫県におけるこれまでの取組

④HYOGO空飛ぶクルマ研究室



概要

- 兵庫県・兼松（株）・中央復建コンサルタンツ（株）・（株）パソナグループ・（株）BUZZPORTの5者は空飛ぶクルマの振興を通じ、地域創生や観光開発を担う人材の育成及び地域活性化を目的とした連携及び協力に関する協定書を締結し、「HYOGO空飛ぶクルマ」研究室を創設
- 次代を担う若者と共に空飛ぶクルマが飛ぶ未来を構想し、研究室で生まれる提案を広く発信することで、空飛ぶクルマの社会受容性の向上や、兵庫から空飛ぶクルマ産業を担う人材の輩出を目指す

取組実績

- ・令和4年4月：「**空飛ぶクルマの振興を通じた地域創生の取組における連携協定**」を締結〔連携事項〕

①空飛ぶクルマによる地域創生、②空飛ぶクルマを活用した観光開発、③①②に関する高校生・大学生の研究活動へのメンタリング、協同活動の実施、④空飛ぶクルマの社会実装に向けた受容性向上のための活動、⑤その他、空飛ぶクルマによる県民サービスの向上、地域の活性化

- ・令和4～6年度：全国の高校生が観光事業計画を競う探求型学習プログラム「**観光甲子園**」内に「**空飛ぶクルマ部門**」を開設

参加者チーム数 2022年度：94・2023年度：104・2024年度：126

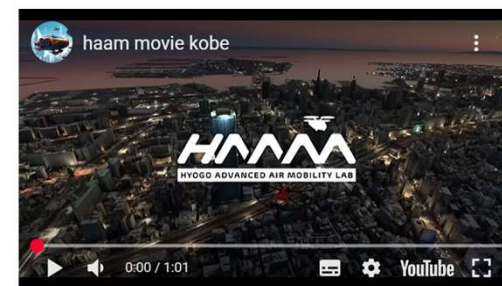
- ・令和6年度：大学生向け空飛ぶクルマ産業の未来人材育成コミュニティ「**PLANKTONS**」



成果

- ・「観光甲子園」などの取組を通じて、多くの生徒に参加いただき、若い世代を中心に**空飛ぶクルマの認知度向上に寄与**

3年間の公式記録動画を作成し、HPで公開中 <https://www.hyogoaam.jp/>



01 兵庫県におけるこれまでの取組

⑤ 空飛ぶクルマ実装促進事業

概要

- ・県内において空飛ぶクルマを活用したビジネス展開をめざしている事業者の取組を支援
- 【対象事業】①実機実証・ビジネス化準備、②ビジネスモデルの検証、③離着陸場整備準備
- ※本事業は大阪府、大阪市、神戸市と連携して実施

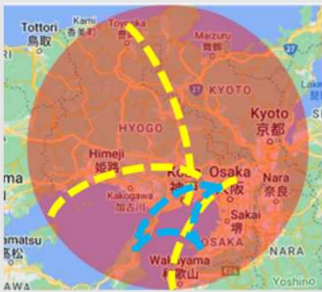
取組実績

採択実績

- ・令和5年度から事業を開始し、令和6年度までの間に **7事業者延べ12事業（R5：6件、R6：6件）** の支援を実施
- ・令和7年度も **3事業者5事業** を採択し、現在事業実施中

採択事業内容（R6）

丸紅(株)



空飛ぶクルマの運航事業
実現に向けた検証調査

(一社)MASC



関西・瀬戸内エリアにおける
空飛ぶクルマ社会実装事業

三井物産(株)



エアモビリティ統合運航管理
プラットフォーム事業

エアバス・ヘリコプターズ・ ジャパン(株)



兵庫・大阪における空飛ぶ
クルマの医療分野の有効活
用の検討II

兼松(株)



兵庫県内における
離着陸場設置検討調査

成果・課題

- ・事業創設以来、様々な分野でビジネス化を目指す事業者を支援し、県内の**社会実装に向けた取組が着実に前進**
▶但馬（城崎）地域等で実装に向けた事業者の取組が始まって来ている状況
- ・事業者によるビジネス化に向けた取組が進みつつあることから、県内での実装を実現するため、今後は**実証・調査から実装に直結する取組に重点を置いた支援が必要**

参考:直近における空飛ぶクルマ関連の動き(国・市・事業者等)

17

○国において「大阪・関西万博後の社会実装の実現イメージ」の取りまとめ(R7.8) ～第11回 空の移動革命に向けた官民協議会の開催～

- 国において“空飛ぶクルマ”の実現に向けて日本として取り組んでいくべき技術開発や制度整備等を協議する「空飛ぶ移動革命に向けた官民協議会」が令和7年8月に開催
- 大阪・関西万博後の空飛ぶクルマの社会実装に向けた中長期的なビジョンとなる「大阪・関西万博後の社会実装の実現イメージ」が取りまとめられた

「大阪・関西万博後の社会実装の実現イメージ(概要)」

	2025	2020年代後半 (2027/2028～) (※1)	運航頻度の向上	2030年代前半	事業規模拡大等	2030年代後半	全国規模での NW形成	2040年代
意義		①社会課題解決:大都市圏の渋滞回避、山間部や離島を含めた地方の移動の活性化、負担が増大する社会インフラの維持・管理コストの低減 ②ビジネスモデル創出:ポート設置・運営、不動産、保険、観光、MaaS、医療など新たなビジネスへの波及 ③産業基盤構築:機体開発・量産化、機体部品等のサプライチェーン構築、運航や整備等に係る人材の育成						
全体		商用運航が一部先行する地域で開始	運航頻度が高まり、導入地域が徐々に拡大	運航頻度は更に高まり、より多くの人の 日常的な移動手段として定着				
大都市圏	大阪・関西万博 ●万博会場周辺の飛行を実施。 ●来場者が空飛ぶクルマの運航を間近で体験し認知度が大きく向上。	二地点間運航が限定的に開始 ●既存施設や先行して整備されるVPを活用して、主要なエリアを結ぶ二地点間運航が限定的に開始。 遊覧飛行が限定的に開始 ●ベイエリア等における遊覧飛行など、非日常的な体験として商用運航が限定的に開始。 空港アクセスの実現に向けた運用検証 ●段階的に実証を重ねられ、既存機との運航調整など官民双方でノウハウが蓄積。	新たなVPが整備され、都市間運航が拡大 ●新たなVPがいくつか整備され、大都市圏の中心都市とその数十キロ圏にある都市を結ぶ都市間運航が拡大。 遊覧飛行拡大、一部で都市内運航が開始 ●都市中心部とその周辺を結ぶ都市内運航が一部の主要なエリアにおいて開始。 空港アクセスが一部で開始 ●既存機との調整や空港施設整備などの課題が解決され、空港と大都市圏の商業施設などを結ぶ空港アクセスサービスが一部で開始。	大都市圏の広域的な運航ネットワークが形成 ●主要都市を拠点とする運航ルートが更に拡大。 都市内運航が拡大し、ネットワーク化 ●屋上など多様なVP整備が進むことで、都市内運航が拡大。都市内ネットワークの原型が形成。 ネットワーク間の接続 ●より広域での移動が可能に。				
地方部		一部で遊覧飛行・貨物輸送の実証が開始 ●景勝地(多島美、山、世界遺産など)で、空から景色を一望する遊覧飛行など商用運航が開始。 ●拠点間での貨物輸送の実証が開始。	観光地・空港へのアクセスや貨物輸送が開始 ●拠点VPを中心に複数のVPが設置され、遊覧飛行が拡大するとともに、観光地や空港へのアクセスに課題を抱える地域での二地点間運航が開始。 ●物流拠点にVPが整備され貨物輸送サービスが開始。	観光利用が定着、地域内運航の開始 ●全国の観光地で、周辺観光地への移動や地方空港の乗り入れなど観光利用が定着。 ●観光利用に限らない日常の移動手段としての運航が開始。 ●運航拡大により、一部地域で広域的な運航ネットワークの原型が形成。				
公的利用等			救急医療・災害対応などの公的目的での導入 ●ドクターヘリの空白地域における、既存のドクターヘリの補完などとして活用。					

万博まで(～R7)

「認知度向上」や「試験飛行・実証」の取組みを想定

万博後(R8～)

社会実装を進めていく段階とされ、R9/R10以降から一部先行する地域で主に観光分野で商用運航がスタートすることが想定

今後実装に向けた動きが本格化

(※1) 一部限定的なエリアでこれに先行する可能性あり。(※2) 自家用運航については、商用運航に合わせて普及が見込まれる。出典:国土交通省 空の移動革命に向けた官民協議会(第11回)

参考:直近における空飛ぶクルマ関連の動き(国・市・事業者等) 18

○大阪・関西万博においてデモフライトや空飛ぶクルマが体感できる展示等を実施(R7.4~R7.10)

- 万博会場内の「モビリティエクスペリエンス」においてオリックス(株)が運営するEXPO Vertiportを拠点として、**空飛ぶクルマがポート内や会場周辺の飛行を実施**
- 空飛ぶクルマの実装された未来が体感できる展示施設「空飛ぶクルマステーション」において、体験型シアターや機体模型が展示



出典:㈱SkyDrive公式ウェブサイト(4/9 大阪・関西万博会場内「EXPO Vertiport」で行われた報道関係者向けフライトの様子)

▶ 空飛ぶクルマが飛行する姿等が体感でき、**全国的に空飛ぶクルマの認知度が向上**

○コウノトリとめぐる空飛ぶクルマ社会実装プロジェクト推進協議会の設立(R7.9)

- 城崎地域では、2023年度から城崎のまちづくり構想を踏まえた「空飛ぶクルマ」の活用に関して、**地域・事業者・自治体と一緒に**って勉強会やワークショップなどの取組みを実施
- この取組みを強化し、**豊岡市全体へ展開**するために、事業者や地元団体等、14団体で構成する「**コウノトリとめぐる空飛ぶクルマ社会実装プロジェクト推進協議会**」を設立
- 城崎温泉への空飛ぶクルマの社会実装とそれに向けた取組みを通じて、豊岡市をより「訪れたくなる」「住みつづけたくなる」「働きたくなる」憧れのまちにすることを目的としたプロジェクトを実施



▶ 空飛ぶクルマの実装の向けて、**地域・事業者・自治体が連携**して取組を推進

01 兵庫県におけるこれまでの取組(まとめ:成果・課題)

19

事業名	成果	課題・意見
次世代空モビリティひょうご会議	<ul style="list-style-type: none"> 県内自治体や県民の方々に空飛ぶクルマに関する情報を広く周知し、認知度向上に寄与 	<ul style="list-style-type: none"> 住民が「自分ごと化」できる活用策を検討することが重要 (公益性の高い事業[防災・医療等]) 地域と連携した長期的な目線での検討が必要
尼崎フェニックスバーティポート整備 機運醸成イベント HYOGO空飛ぶクルマ研究室	<ul style="list-style-type: none"> 空飛ぶクルマを身近に感じていただく各種イベントの実施等により、認知度向上に寄与 	<ul style="list-style-type: none"> 空飛ぶクルマの理解促進（社会受容性向上）に向け、引き続き取組が必要
空飛ぶクルマ実装促進事業	<ul style="list-style-type: none"> 7事業者延べ12事業の実証・調査事業を支援し、県内実装に向けて着実に前進 (但馬[城崎]地域等では実装に向けた事業者の取組が始まって来ている状況) 	<ul style="list-style-type: none"> 県内の実装に直結する取組に重点を置いた支援が必要

現状

・これまでの取組により、**認知度や社会受容性の向上に一定寄与**したとともに、事業者によるビジネス化に向けた取組を前進させ、県内での**社会実装に向けた土壌を形成**

今後

・社会実装に向けて重要となる「**住民の自分ごと化**」や「**地域との連携**」を意識して取組を進める必要
 ・県内での社会実装に向けては、**実装に直結する取組に重点を置いた支援**が必要

02 兵庫県が目指す将来の姿

02 兵庫県が目指す将来の姿

目標1 空飛ぶクルマが日常的に利活用される地域の形成

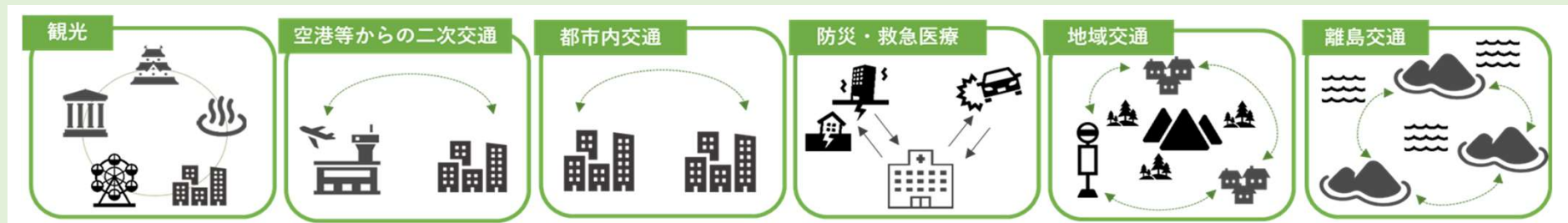
観光分野等での商用運航を実現させるとともに、災害対応や救急医療等、県民の安心・安全や生活向上のため多様なユースケースで日常的に空飛ぶクルマが利活用される地域を目指す

目標1-1：商用運航（ビジネス化）の実現・定着【主に観光分野を想定】

- ・実装事業等の取組により、観光分野を中心として社会実装に向けた事業者の取組は着実に進展
- ・「ひょうご新観光戦略」（2023～2027年度）では兵庫観光が目指すべき姿として「旅の長期滞在化」（点から周遊の観光）や「高付加価値化」の実現を掲げており、現在実施している戦略の中間見直しにおいて、「兵庫を拠点とする新たな広域観光圏の創出」「インバウンド拠点からのプラスワントリップ」の推進を重点的な施策に掲げている
- ▶ **兵庫観光が目指す方向性に空飛ぶクルマは活用可能性が高い**
- ・まずは県内で空飛ぶクルマが**運航する環境**を根付かせるため、主に観光分野での**商用運航(ビジネス化)の実現・定着を目指す**

目標1-2：地域課題解決に向けた活用[防災・救急医療・地域交通等]

- ・能登半島地震では多くの孤立集落が発生し、**空路の重要性が注目**
- ・災害対応だけでなく、人手不足問題やインフラの維持・管理など、地域が抱える様々な課題解決に向けて**次世代モビリティ**を始めとした**先端技術への期待や関心も高まっている**
- ・商業面だけでなく、空飛ぶクルマの技術を**地域(住民)にも還元**できるよう**地域課題解決に向けた活用を目指す**



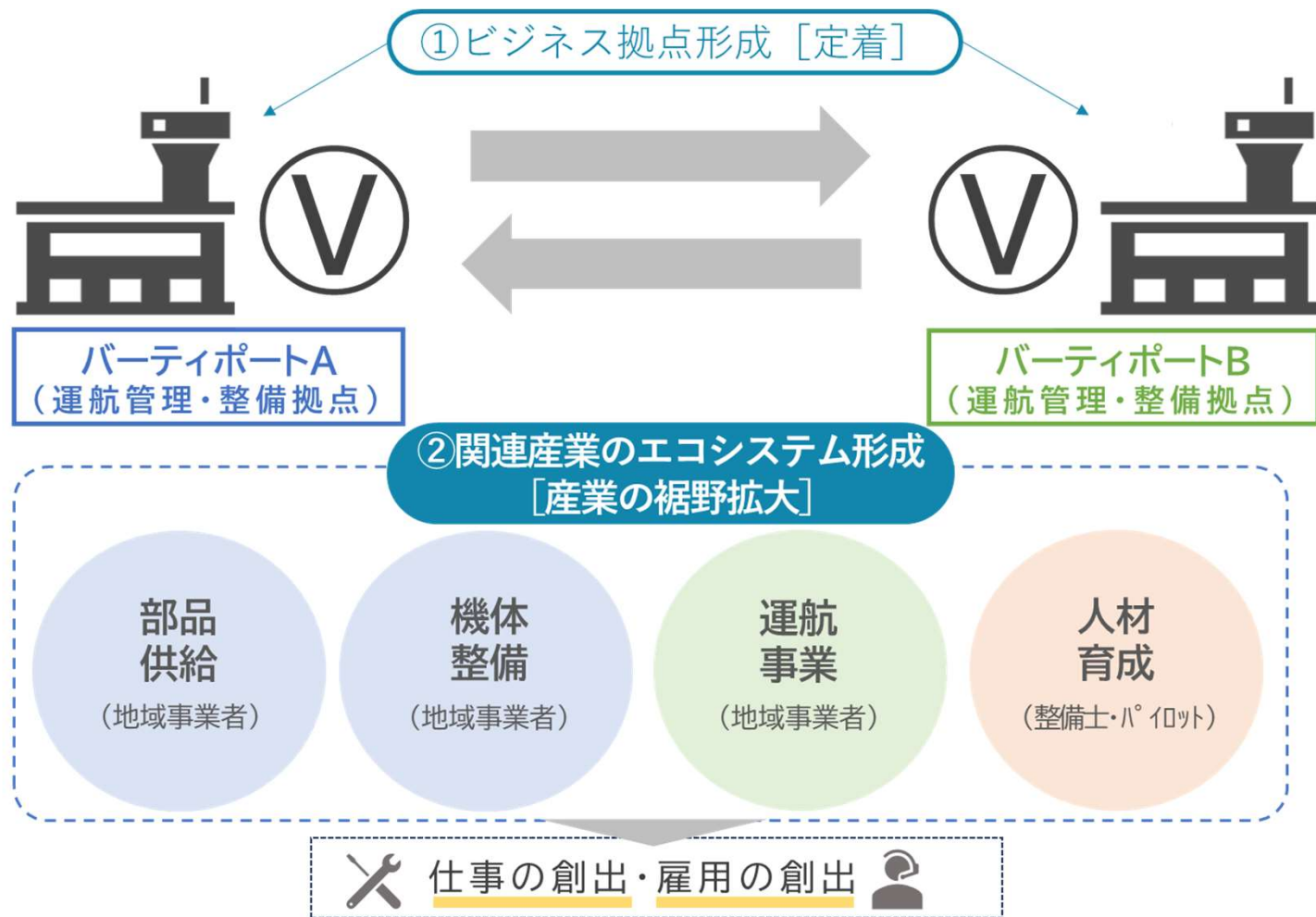
02 兵庫県が目指す将来の姿

22

目標2 空飛ぶクルマ関連産業のエコシステム形成

空飛ぶクルマの関連産業(機体整備や部品供給等)を県内産業へ波及させ、次世代産業の創出を目指す

県内事業者・地域への波及イメージ



空飛ぶクルマを県内で**持続的に**運航していくためには、**機体整備等を行う体制**が求められる

本県はものづくり県としての特徴を持ち、**航空機産業など多様な技術を持つ企業**が集積

空飛ぶクルマ関連産業を**県内産業へ波及**させ、**地域経済の持続的な成長**を目指す

02 兵庫県が目指す将来の姿

23

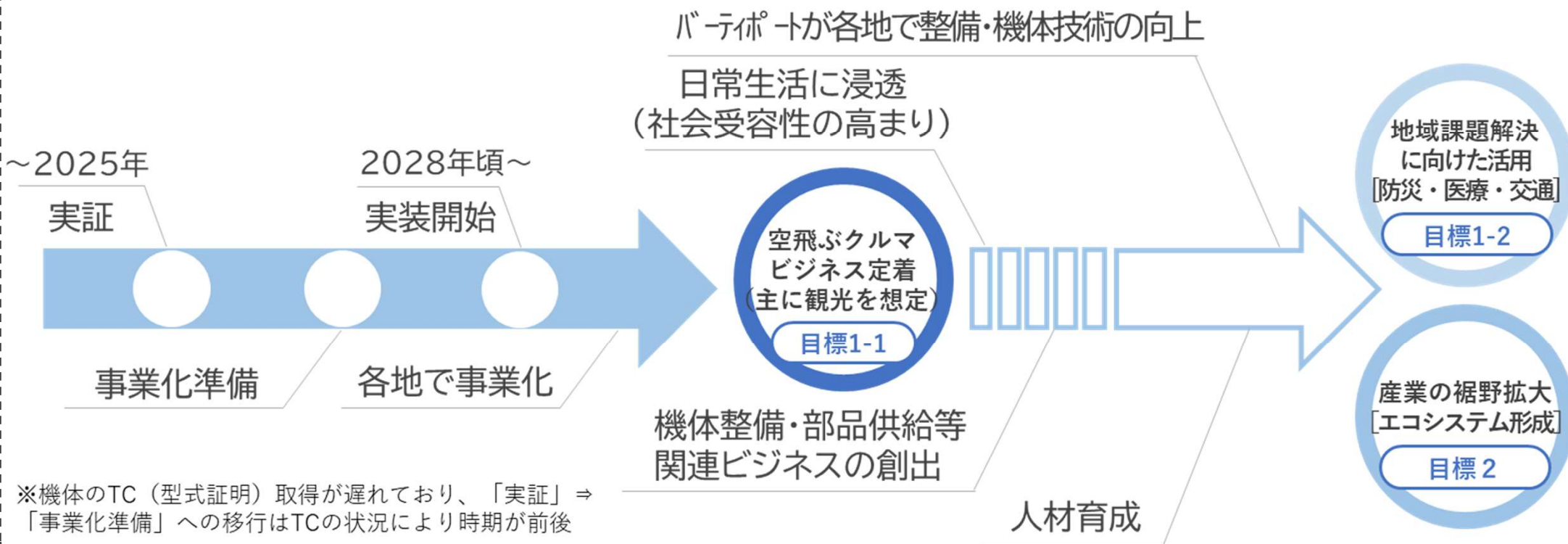
将来の姿実現に向けたステップ(イメージ)

- ・ 兵庫県においてもビジネス化の実現・定着により空飛ぶクルマの運航拠点が形成され、地域で日常的に空飛ぶクルマが飛行している環境が作られることにより、地域課題解決に向けた活用や関連産業のエコシステム形成と段階を経て進むと想定
- ・ 空飛ぶクルマが日常的に飛行している環境に向け、まずは**商用運航(ビジネス化)実現・定着を目指す**

実証～事業化準備～実装開始

定着

日常生活に浸透・裾野拡大



バーティポートが各地で整備・機体技術の向上

日常生活に浸透
(社会受容性の高まり)機体整備・部品供給等
関連ビジネスの創出

03 今後の取組方針

03 今後の取組方針（目標実現に向けた今後の取組）

空飛ぶクルマ事業の実績・今後の課題（再掲）

取組実績

【次世代空モビリティひょうご会議・機運醸成イベント】

- ▶ 空飛ぶクルマに対する県民等の**認知度向上に寄与**

【空飛ぶクルマ実装促進事業・尼崎フェニックスバーティポート】

- ▶ 事業者による商用運航実現(ビジネス化)に向けた取組を前進させ、県内での**社会実装に向けた土壌を形成**（但馬[城崎]地域等では実装に向けた事業者の準備が始まって来ている状況）

今後の課題

- ・ 県内での実装に結び付けるため、**事業化に向けた準備が具体的に進んでいる事業者の取組に重点を置いた支援**が必要
- ・ 社会実装に向けては「**地域との連携**」や「**住民理解**」を意識して取組を進めることが必要

目標実現に向けた取組（全体像）

方針検討

県取組方針
の検討

地域ニーズ
の把握

次世代空モビリティひょうご会議

地域のステークホルダー（自治体・関係団体・事業者等）と
意見交換や情報共有を行う場の設置

目標実現に向けた
各種施策を展開

目標 1－1

空飛ぶクルマ
ビジネスの定着

目標 1－2

地域課題解決
に向けた活用

目標 2

関連産業の
エコシステム形成

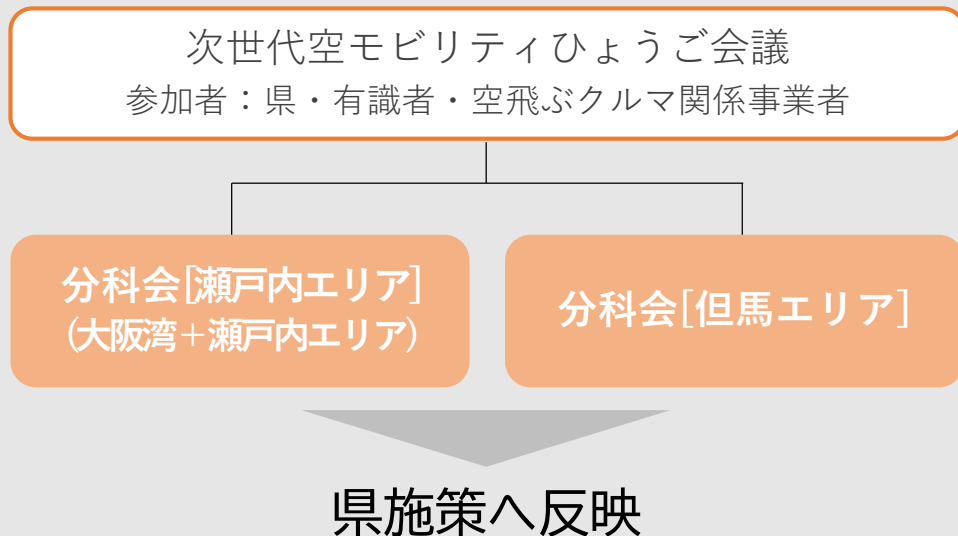
03 今後の取組方針（目標実現に向けた今後の取組）

取組1 地域と連携して取組方針等を検討する場の設置

実施方針案

- ・ 空飛ぶクルマ事業における県全体としての取組方針等は次世代空モビリティひょうご会議で検討
- ・ 一方で多様性に富む本県では地域によって実情が異なることや、社会実装に向けては「**地域との連携が重要**」との意見が当会議構成員から提示
- ・ 各地域のニーズを把握し、目標実現に向けた取組をより効果的に実施するため、地域のステークホルダーと意見交換等を行う「**次世代空モビリティひょうご会議地域分科会（仮称）**」を設置

設置イメージ



1 内容（案）

- （1）空飛ぶクルマの活用が想定されるユースケース（観光・防災・地域交通・救急医療等）について、**各地域における各分野のステークホルダーと当該地域の現状や課題、活用可能性等**について意見交換
- （2）空飛ぶクルマの動向や県内取組について情報共有

2 参加者（案）

- ① 県
 - ② 地域関係者(市町・関係団体等)
 - ③ 空飛ぶクルマ事業者
- ※必要に応じて有識者の参加も想定

03 今後の取組方針（目標実現に向けた今後の取組）

取組2 各目標の実現に向けた事業展開

実施方針案

- ・地域で日常的に空飛ぶクルマが飛行している環境実現に向け、空飛ぶクルマの**商用運航（ビジネス化）**
実現・定着に向けた取組を重点的に実施



POINT 各事業実施にあたっては、**地域との連携**や**住民から受け入れられる**ことを念頭に置いた
内容を検討

※「関連産業のエコシステム形成」や「地域課題解決に向けた活用」に向けた取組については、機体開発状況や県内でのビジネス定着状況を踏まえて検討

	事業内容	地域連携・住民理解促進の取組(案)
【目標1-1】 空飛ぶクルマ ビジネスの定着	▶ 事業化準備の取組への支援 (実証・調査から事業化準備へシフト) 県内での事業化に向けて実装に直結する取組を支援 (例：離着陸場設置準備等)	地元自治体と連携した事業計画 の策定等
【目標1-2】 地域課題解決に 向けた活用	▶ 地域との意見交換を踏まえた活用の検討 引き続き空飛ぶクルマの最新動向を情報収集（機体開発状況 等）するとともに、地域との意見交換や機体開発状況を踏まえ 活用を検討	地域分科会でユースケースごと に意見交換を実施
【目標2】 関連産業の エコシステム形成	▶ 県内事業者向けセミナー・イベントの開催 空飛ぶクルマに興味を持つ県内事業者向けにセミナーやイベント等を開催	拠点周辺 地域での実施 (地域住民向けPRも合わせて実施)